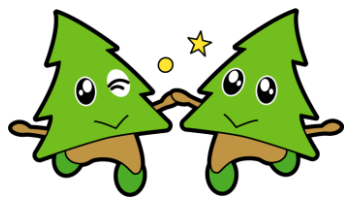


あきたスギッチファンド通信



ファンドの寄付金受取状況

(26年4月～26年7月)

本ファンド	
団体寄付	844,639 円
個人寄付	89,000 円
合 計	933,639 円
分野指定	
除雪問題	210,000 円
合 計	210,000 円
総 合 計	1,143,639 円

No. 18 2014年8月10日発行

特定非営利活動法人

あきたスギッチファンド

TEL 018-839-8941

FAX 018-829-5803

e-mail madoguchi@sugicchi-fund.jp

<http://www2.akita-kenmin.jp/~akita-npo-fund/>

アサヒビール秋田支社様から
ご寄附を頂きました。



新しい取組み

「コミュニティビジネス立ち上げ支援事業」の募集、公開審査 今年度、県から受託しました。近年NPO活動を継続させるためにはビジネス的な視点が必要であるという認識に立っており、多くの人にコミュニティビジネスを身近なものにして頂きたいと考え、受託したものです。

除雪問題 同じく県から「共助組織等設立支援事業」を受託しました。秋田県の最重要課題である除雪問題を共助組織によって対処する、つまり県内各地に町内会、企業、ボランティア、NPO等による共助組織を結成し、地域ぐるみで除雪、防災を進めようとするものです。スギッチファンドとしては、一方ではそのために要する資金を得るために寄付を呼びかけますし、他方では10万円を限度として立ち上げ資金を助成します。スギッチファンドの分野指定の事業となります。猛暑の日々にはぴんときない除雪問題ですが、寒くなってくると必要性が切実になってくるのではないのでしょうか。

クレジット決済サービス あきたスギッチファンドの会費、寄付金の支払いに、クレジット決済サービスを利用できるようになりました。当法人ではCANPAN ペイメントのシステムを利用しています。ご利用いただけるクレジットカードは、VISA、MASTER です。

あきたスギッチファンドホームページから、クレジット決済を選び、画面に沿って入力して下さい。

ご着任早々のお忙しい中、アサヒビール株式会社秋田支社の上田様がお出でになり、アサヒビール株式会社の社会貢献への熱い思いをお話下さいました。



4月14日(月)、あきたスギッチファンド総会場で、アサヒビール株式会社秋田支社の上田支社長から20万円のご寄附を頂きました。

アサヒビール秋田支社からは毎年ファンド資金として多額のご寄附を頂いております。加えてスギッチファンドチャリティ事業の景品用にビール等のご寄贈も頂いております。

今回のご寄附は、除雪対策事業の助成金に当てさせて頂きます。

平成26年度コミュニティビジネス立ち上げ支援事業

秋田県のコミュニティビジネス立ち上げ支援は、これまで県が助成金の募集・審査から支払いまでを一貫して実施してきた。今年度、コミュニティビジネスをもっと市民に身近なものにしたいという県の意向を受けて、当ファンドではコミュニティビジネス立ち上げ支援の中の募集、公開審査を受託し、事業を実施した。

コミュニティビジネス立ち上げ支援は、助成金の上限が80万円、補助率が1/2となっている。ビジネスとしての実行性、自己資金の確保、資金計画などが厳しくチェックされる。

4月7日から5月16日まで募集をし、6件の申請があった。6月8日（日）遊学舎で公開審査会が行われ、4団体が採択となった。

審査員 ◎審査委員長	鑑 啓記	NPO法人あきた地域資源ネットワーク 常務理事
	石沢 真貴	秋田大学教育文化学部政策科学講座准教授
	柿崎 博美	東北インキュベーションマネージャー連携協議会
	◎北嶋 正	株式会社イヤタカ 代表取締役社長
	湯元 巖	秋田県企画振興部地域活力創造課

団体名 総合型地域スポーツクラブ Fan (秋田市)
代表 保坂 美加
事業名 生涯スポーツ社会の実現他



広面地区や下北手地域には気軽に運動をする場所や気軽に交流する場所が少ない。
下北手松崎の秋田中央スポーツセンターの施設を借りて、スポーツクラブを開設、親子3B体操教室、シニア3B地層・ヨガ教室、スマイル交流サロンなどを行う。
子どもからお年寄りまで幅広い世代の健康づくりを促進するとともに、スポーツを通じた交流や仲間作りの場として、地域の活性化に資することができる。(助成額 80万円)

団体名 げんき丸 (潟上市)
代表 三浦 一馬
事業名 高齢者等の買い物弱者の支援

秋田市内でも郊外では、高齢者世帯や独居高齢者は自由に買い物ができないでいる現状にある。秋田市東部の高梨台地区、松崎団地、手形山地区を移動販売車で週3回巡回し、日常雑貨や食料品を販売する。併せて消費者からの要望に応じて、注文を受け翌日配達も行う。商品配達時は安否確認にもなる。(助成額 80万円)

団体名 光希屋 (ひきや) (大仙市)
代表 楊 謹鴻 (ヨン ロザリン)
事業名 ココロを育てる地域交流塾

秋田県における調査では、15～39歳のひきこもり出現率は約10%という。この若者をひきこもりから脱却させ社会復帰に導くために、店舗兼事務所を整えさまざまな事業を行う。カフェの運営、足湯マッサージ、英語手話教室、アートセラピー講座などにひきこもりの若者を参加させ、次第に利用者からスタッフに昇進させ、自主的に行動する力を養っていく。このような活動を通して、ひきこもりに対する理解を深め、かつ地域全体でひきこもりの若者を支援し、また防止していく地域づくりに繋げることができる。(助成額 80万円)

団体名 障がい者自立支援団体「アメヤ」 (秋田市)

代表 高橋 悟

事業名 障がい者就労支援

現在、就労支援施設に通う障がい者の賃金は安く、自立や独立が困難な状況にある。現状を打破するためには、新規事業を立ち上げ、賃金UPと社会復帰への支援が必要である。アメヤ珈琲が新規商品を障がい者自立支援団体「アメヤ」に提供、団体は通所作業所「緑光園」で新しいデザインのドリップパックを作る。これを協力して販路を拡大することで、障がい者が社会復帰できる環境を作り出すことができる。 (助成額 30万円)

第11回(2014年度第1回)助成先決定

第11回あきたスギッチファンドの募集は、5月10日～6月10日に行われた。応募状況は下表の通りである。

応募状況一覧

ファンドの種類	募集件数	応募件数
本ファンド 10万円コース	4	6
30万円コース	4	6
三国こども震災支援 10万円コース	2	0
30万円コース	2	2
冠ファンド「ダイドーいのちを守る活動支援ファンド」 30万円コース	1	1
東日本大震災避難者支援応援ファンド 10万円コース	2	0
30万円コース	3	2

7月13日(日)、第11回あきたスギッチファンド公開審査会が遊学舎に於いて開催された。

本ファンド10万円コースは、書類審査と協議で決定することにした

当日のプレゼンテーションは全部で11件、各団体の持ち時間は説明、質疑応答を含めて15分、午前9時45分から始めたが、審査検討協議に時間がかかり、結果発表は午後4時過ぎとなった。

プレゼンテーションで事業計画
をアピール

審査委員長から採択事業
の発表



本ファンド

10万円コース

団体名 **交通事故被害者自助の会 サポート・ウィンド** (秋田市)
事業名 **交通事故被害者相互の出会いとそれを支える人の交流を広める相互支援事業**

交通事故被害者・遺族は、生命、身体、財産上の被害だけでなく、その後に生じる精神面や経済面等の様々な問題に苦しめられるなど、二次的な被害も深刻である。

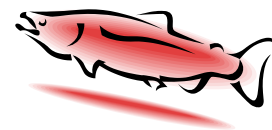
交通事故被害者の自助グループである当団体は、会員同士の日常的交流を図り、交通事故被害者のために必要な情報提供、捜査・公判等の段階における付添い、専門的なアドバイス、専門家による研修会等を行う。このことによって、被害者の早期の被害回復、社会復帰をめざす。

団体名 **久保田城址歴史案内ボランティアの会** (秋田市)
事業名 **秋田の魅力アップ事業**

久保田城址は貴重な歴史遺産・観光資源であるが、全国的に見れば認知度はまだ低い。当会は、千秋公園（久保田城址）を訪れる県内外のお客様を無償で案内するボランティア団体である。今回、秋田の歴史文化を全国に発信し、秋田がもつ多様な魅力を内外にアピールするために、パンフレットの作成、案内誘導看板やユニフォームの改装など、久保田城址及び会の活動に関する広告宣伝体制を強化し、また案内に必要な会員の知識や資質の向上を目指して研修を行う。

団体名 **NPO 法人秋田水生生物保全協会** (秋田市)
事業名 **地魚・旬の魚検定試験**

秋田の魚や海藻などについて、できるだけ多くの人に関心や知識を深めてもらうために「地魚・旬の魚検定試験」を行う。講義と受験を通して、秋田の魚介類の魅力の再発見に繋げることができると考える。



団体名 **NPO 法人 IT サポートあきた** (北秋田市)
事業名 **シニア情報生活アドバイザー養成講座**

シニア情報生活アドバイザー制度は、一般財団法人ニューメディア開発協会が主催し、高齢者がパソコンやネットワークを利用して、より楽しく、活動的な生活が送れるようになることを目指して、正しい知識、技術を学び、認定試験に合格した“プロ”の育成を行うというものである。

この制度を利用して、概ね50歳以上を対象として、シニア情報生活アドバイザーを養成し、公民館、自治会、サークルなどでプロとして指導してもらう。セカンドライフ、シニアの社会参加のひとつのモデルとなることが期待される。

30万円コース

団体名 **L. A. N. E. (Living and natural environment)** (秋田市)
事業名 **中通 Piece for Earth**

当団体は、生活環境及び自然環境問題の解決と地域社会の循環的かつ持続的な発展に寄与することを目的として活動している。

8月24日、中通三丁目街区公園（通称たまご公園）を会場に、事業を実施する。環境と地域振興をテーマにしたステージ演奏 パフォーマンス、環境に配慮したフリーマーケットや新鮮野菜の直売、町内会との交流などにより、環境に優しい社会づくり、他人同士が繋がり共に地域を創造する心を育む。

団体名 **中学生モデルロケット秋田県大会実行委員会** (秋田市)
事業名 **第2回中学生モデルロケット秋田県大会**



8月17日（日）能代宇宙イベント内で、「第2回中学生モデルロケット秋田県大会」を実施する。この事業は他県にはない非常に独創的な取り組みであり、事業を行うことで、多くの秋田県内中学生が宇宙関係や理工系分野への関心を高めることにつながることを期待される。今後も継続的に実施できるように、体制を整えていきたい。

団体名 **チーム ファンキー** (潟上市)
事業名 **ファンキーフェスティバル2014**

8月17日（日）天王グリーンランドで「ファンキーフェスティバル2014」を実施する。「30mの超ロングの流し稲庭うどん」と、家族との繋がりをより強くして頂くための映画「かみさまとのやくそく」の上映をメインに、イベントを開催する。子どもたちに『大人になるってことは、本当に楽しみで夢のある事なんだよ…』ということを伝えて、将来『秋田に住みたい』『秋田で夢を叶えたい』と思ってもらえるような地域づくりを目指す。

団体名 **おおだて de 子育て** (大館市)
事業名 **わわわ de 子育てカフェ ～話して和んでHappyな輪をつくら♪～**

子育て仲間の情報発信、交流、育児相談、リフレッシュの場として「子育てカフェ」を開設する。月に1回、大館市中央公民館で子育てカフェを開催、子育て中の人が「大館で子育てするのは楽しい」と感じられるようにする。

市や他の子育て支援団体と協力しあいながら、継続して運営できるようにしたい。

冠ファンド「ダイドローいのちを守る活動支援ファンド」

30万円コース

団体名 **NPO法人北秋田ハッピーデリバリー** (北秋田市)
事業名 **米内沢駅活性化事業**

当法人は、主に高齢者世帯の生活支援サービス事業を行っている。

米内沢地域では、高齢者世帯の閉じこもり・自殺率の上昇などが地域課題になっている。そこで米内沢駅舎の一部を整備し、高齢者の生きがいと心の健康づくりを支援する憩いのスペースを開設する。米内沢駅周辺的环境整備をし、地域住民の憩いの場を作ることで、閉じこもりの予防や心の健康作り、ひいては自殺予防に繋げることができる。

冠ファンド 三国こども震災支援ファンド

30万円コース

団体名 自然あそび親子サークル『Akita コドモの森』(秋田市)

事業名 ～自然と共生、子どもたちの生きる力を育む森遊び～

自然豊かな秋田県で未来に残したい子どもたちの姿・幼児教育を考える
青空自主保育の三年間「さあ、のはらへ行こう」の上映会&パネルディスカッション

当団体は、四季を通して自然の中で活動することによって、子どもたちの心と体、感覚機能のバランスのとれた成長をし、自然と共生し、生きる力を育むことをめざして活動している。

東日本大震災の経験を経て、子どもたちに身に付けてほしい力を育むものとして、幼少期の自然あそび体験が注目されている。そこで8月9日(土)秋田県児童会館子ども劇場けやきシアターで、神奈川県鎌倉市にある青空自主保育なかよし会の3年間の記録をまとめた映画『さあのはらへいこう』の上映会と活動事例発表、パネルディスカッションを実施する。自然遊び体験の大切さや必要性が伝わり、自然災害などの防災の備えとなり役立つことが理解されると期待される。

団体名 秋田避難者おやこの会(秋田市)

事業名 避難者おやこの遊び場、学び場、しゃべり場 II

秋田に避難してきた親子が、秋田のNPOや農家、ボランティアの協力を得ながら、自ら安全で楽しく快適に暮らせる活動を行うことを目的に立ち上げた団体。

避難しているおやこが、畑をフィールドに農作業を通してコミュニケーションを図る“おやこの畑”、子どもたちがボランティアに協力していただきながら学習支援と遊びを行う“夕暮れ子供会”、農家体験、季節の交流イベント、食品の放射性物質の測定などの事業を行う。

東日本大震災避難者支援応援ファンド

団体名 NPO 法人あきた子どもネット(秋田市)

事業名 県内避難者地域交流会(なべっこ交流会) 2

当法人は、大震災以来、継続して避難者の子どもたちや家族と交流してきた。

震災から3年を経過して、県内に広く避難している被災者同士が交流する機会が減ってきている。今回、秋田市近郊でなべっこ交流会を開催する。秋田の風土や豊かな地産地消の食材で心身ともにリフレッシュして、元気を取り戻してもらおう。

団体名 one day shop 四葉(秋田市)

事業名 アートで自立支援

当会では、秋田県避難者交流センターで、2年間、月に一度パステル和アート体験講座を行ってきたが、これからは避難者自身が資格取得講座を受けて、講師になれるようにする。会では被災者が養成講座を受講して、パステル準アートインストラクターとして認定登録されるまでを支援する。被災者がパステル和アート講師の資格を取得することで、全国どこでも活躍でき、経済的自立に繋がることが期待される。

事業報告会&NPO交流会

事業報告会

7月26日(土)、助成事業報告会を遊学舎で開催した。今回の報告対象は、第8回(平成24年度第2回助成)、第9回(平成25年度第1回助成)の20事業。各団体は活動内容や写真、成果などをパネルに掲示し、パネルの前の机には団体のパンフレットや成果物などを展示した。

各団体が事業を説明し、それに対してインタビュアーが質問し、説明員が答えていくという形で進められた。各団体の持ち時間が5分と短く、もっと時間が欲しいという意見が多かった。掲示はそれぞれ工夫が見られ分かりやすかった。この掲示物は、8月10日から19日まで遊学舎展示ギャラリーに展示されている。

助成金の報告会は、事業の成果をまとめ次に活かすというだけでなく、寄付者への説明責任という観点からも大変意義があると考えている。また、当事者だけでなく、NPOに関心を持つ多くの方々にも参加して、活動のヒントを得て頂きたいものである。

続いて、過去にスギッチファンドの助成金を得て、それを基に活動を発展させている、NPO法人ふじさと元気塾理事長藤原弘章氏とあきたファミリーハウス代表滝波洋子氏から事例発表があった。

NPO法人ふじさと元気塾では、助成金で地域おこし事業を実施したが、更にトヨタ財団等から助成金を獲得して、藤里町と藤沢市鶴沼商店街との相互交流を進めていることなどが報告された。あきたファミリーハウスでは、子どもが入院しているその家族のための宿泊施設の開設準備のために活動していたが、その後宿泊施設が整備され活用されている、利用者から大変喜ばれているという報告があった。

スギッチファンドの助成金が事業実施だけに終わらず、その後の団体の基盤整備、事業拡大につながっていることは、まさにファンドの目指すところであり、このような事例が増えることを望んでいる。



ポスターの前で事業報告



ふじさと元気塾の藤原さん



ファミリーハウスの瀧波さん

NPO交流会

事業報告会に続いて、同じ会場でNPO交流会を開催した。この機会に特にテーマは設けず、NPO同士の懇談、情報交換、意見交換を行おうと考えたのである。グループに分かれてNPO同士で、活動状況、困っていること、工夫していることなどをフランクに話し合った。



輪になってNPO交流会

助成金でこんな活動をしました ～事業報告会からピックアップ～

親と教師のための発達障害指導力アップ講座

NPOあきた花咲く教師カネット

代表 間嶋 祐樹

(第8回本ファンド(平成25年1月)で100,000円助成)

発達障害の子どもたちに、保護者は、教師は、どう対応するかを学ぶ講座を、大館市、秋田市、湯沢市の3会場で実施した。

発達障害の子どもたち、学習にある種の困難を持つ子どもに対して、具体的な対応法、どの子にも生きる力と生きる能力を身につけさせる指導法などを、脳科学からのアプローチを含めて学んだ。

助成金は講師謝金、交通費、会場費などに使用した。



参加者の声から

笑いあり、涙ありの講座でした。…講座は励みになります。発達障害を理解できる方がたくさん増えてほしいです。

1回だけ褒めることは簡単ですが、手を変え色々と褒め続けるのはテクニックが要るなあと思っています。そのヒントを今日はいただきました。

オーガニックフェスタ in あきた 2013 と潟上のオーガニックマーケットの開催

秋田県有機農業推進協議会

代表 相馬 喜久男

(第9回本ファンド(平成25年7月)で300,000円助成)

有機農業は全国で大きく広がっている。このようなうねりを受け、秋田県における有機農業運動の新たなステージを拓くために、2010年から県内の有機農家や消費者と連携して、「オーガニックフェスタ in あきた」を開催してきた。今回は秋田市のセリオンで2日間開催し、併せて潟上市のくららでも3日間開催した。

セリオンには延べ4千人が来場し、大成功であった。生産者と消費者が直接話をしたり、試食したりしながら、野菜や果物を選んでいった。また、くららでのイベントによって、有機農産物の新たな販売先開拓のめどがたった。

この事業は今後も継続していきたい。

助成金は、ちらし、ポスターの印刷費、会場費、消耗品費などに使用した。

